

近代日本における庭園噴水の歴史的展開

The Historical Development of Modern Fountains in Japanese Gardens

汪 冰* 中村 文** 鈴木 誠***

Bing WANG Aya NAKAMURA Makoto SUZUKI

Abstract: This study was focused on modern fountains in the Japanese garden. The fountain has not previously been emphasized as a garden facility in Japan, and there are not many previous studies on this subject. So, we discussed the historical development of modern fountains in Japanese gardens from the Meiji period to the pre-war days of the Showa period. First, considering the examples of the vocabulary of fountain in the landscape architecture-related terms, its transition shows that the fountain which was new in the Meiji period was generalized after 1955 circa. And then, examining the examples of modern fountains in gardens of Japan as much as possible, and the development of garden modern fountains in Japan were considered historically. We collected 449 image materials of fountains and 36 newspaper and magazine articles. Through the analysis of those research material, the modern fountains of Japanese gardens were appeared in the mid of Meiji period. Those fountains were installed at the redeveloped park of precincts of temples and shrines. Also early examples of fountains were observed at the gardens of nobles and authority. Through Taisho and Showa periods, fountains of Japanese gardens were seems to be increasing. And then after the Pacific War era, fountains were getting popular but the fountains of the Japanese garden were losing its popularity.

Keyword: Japanese garden, modern garden, fountain, historical development, modern Japan

キーワード: 日本庭園, 近代庭園, 噴水, 歴史展開, 近代日本

1. 研究の背景と目的

現代社会において、噴水は、公園や広場などあちこちに存在している。私たちにとって身近な存在である噴水は、明治時代からの急速な西洋化に伴い、その設置件数が増加した。

しかし、造園史に登場する噴水は、古代飛鳥時代(592-710)の酒舟石や須弥山石像などの庭園噴水施設¹⁾、中世鎌倉時代後期(1259-1274)の南禅寺塔頭南禅院付近に造られた水を噴き上げていた湧泉²⁾(1300頃)、近世江戸時代(1603-1867)の江戸城吹上御所³⁾(1800頃)、水戸偕楽園⁴⁾(1811頃、図-1)と金沢兼六園⁵⁾(1861、図-2)など、その事例数は少ない。

噴水が日本の造園史に多く登場するのは、近代明治時代に西洋文化の影響で噴水が導入され、共進会・博覧会等の会場に噴水が発達し、公園や庭園の中、あるいは広場などの公共のオープンスペースに導入されるようになってからである⁶⁾。

上原敬二(1960)は、「日本で噴水ができなかった理由のひとつは大体西洋式庭園というものに一般の興味が薄かった」、「日本庭園に噴水の出現は望み薄」⁷⁾と指摘する。しかし、これまで著者らが収集した情報から、日本において公園や広場だけではなく、近代日本庭園に数多くの噴水設置事例があったことを把握している。日本の庭園施設として噴水が取り入れられ一種のブームがあったと思われるのである。それは、いずれも現存しない明治時代の小石川後楽園内大堰川に付け加えられた噴水⁸⁾(1906以前、図-3)の事実や、明治時代の中頃に描かれた錦絵「枢密院会議場之図」⁹⁾に描かれた庭園の噴水(1888、図-4)、そして、靖国神社の庭園の噴水¹⁰⁾(1880、図-5)などから察すると、明治時代中期以降から昭和時代にかけてのことと思われるが、日本の庭園噴水に関する専門的にまとまりのある研究を見ない。(表-1)

そこで、本研究は日本の庭園噴水設置が多くみられる明治時代より昭和時代戦前期(1868-1945)までの近代を中心に、その歴史的展開をまとめることとした。



図-1 水戸偕楽園 玉龍水 1811年頃
〔茨城常盤公園優勝図誌〕, 1885年



図-2 「兼六公園内噴水図部分」, 1861年
〔兼六公園誌〕, 1894年

2. 日本の庭園噴水に関する既往研究

庭園に関する大系的著作、上原(1960)の『ガーデンシリーズ』では「わずかにややみられる噴水が設けられたのは明治時代以降何回か催された博覧会の前庭、中庭等に於いてであった。しかしこれは常設的ではない。こう考えてくると個人の庭はもちろん、公園等にあっても今後噴水というものの出現はまず望み薄であると思わなければならぬ。ましてや古典的な形式の噴水工作は到底出来得ないと断言しても誤りではなからう。」¹¹⁾とする。

造園学分野の噴水に関する大系的著作、佐藤昌(1999)『噴水史研究』¹²⁾は、世界の噴水を題材とし日本の噴水も通史的に解説するが、近代ではやはり明治時代からの共進会、博覧会等の会場に噴水が発達したことを主として記述している。

日本庭園に関する近年の専門書、小野健吉(2009)『日本庭園』

*東京農業大学大学院造園学専攻 **湘南みどり学園日本ガーデンデザイン専門学校 ***東京農業大学地域環境科学部



図-3 小石川後楽園内大堰川, 1906年以前 (絵葉書 明治時代末期)



図-4 枢密院 (赤坂御所別館), 1888年 (「枢密院会議之図」, 1888年)



図-5 靖国神社奥庭の噴水, 1880年 (絵葉書, 明治時代末期)

表-1 噴水に関する詳細な記述のみられる既往文献一覧

著者	発行年	書名・論文名・記事名	出版社
上原敬二	1960	ガーデンシリーズ12 橋・池泉・壁泉	加島書店
農耕と園芸 編	1978	水の造園デザイン 池・滝・流れ・噴水	誠文堂新光社
鈴木信宏	1981	水空間の演出	鹿島出版会
寺下勲	1987	博覧会強記	エキスプラン
岩崎岩次	1989	美しい水辺空間を求めて—噴水— 工業用水 371号	日本工業用水協会
岩崎岩次	1990	日本の噴水(1)見聞記、工業用水 376号	日本工業用水協会
岩崎岩次	1991	日本の噴水(3)見聞記、工業用水 399号	日本工業用水協会
岩崎岩次	1994	日本の噴水—見聞記(4)— 現代の噴水、工業用水425号	日本工業用水協会
矢田努、仙田満、岡吉真哉	1998	都市における噴水、滝等の人工的に整備された水辺空間の景観構成に関する研究	都市計画別冊都市計画論文集
佐藤昌	1999	噴水史研究	インタラクション、環境緑化新聞社
小池純二、坪山幸王、佐藤信治、福田尚史、塙貴宏、坪山幸王、佐藤信治、福田尚史	2001	建築と水の空間構成に関する研究その1 建築雑誌中のコンセプト文章に基づく分類	日本建築学会
小池純二、坪山幸王、佐藤信治、福田尚史	2001	建築と水の空間構成に関する研究その2 平面・断面構成について	日本建築学会
柿崎正義	2004	都市空間における水	日本建築学会
多田江里子、美濃部幸郎	2004	現代日本の建築作品における水による自然と人工の表現	日本建築学会
下中美都	2005	日本の博覧会 寺下勲コレクション	平凡社
小野健吉	2009	日本庭園 空間の美の歴史	岩波書店
松崎貴之	2012	噴水と近代日本	文化資源学研究会

では、日本固有の庭園施設の原型に「水槽祭祀」, 「湧水・流路祭祀」(あふれ出る湧水からの流路に臨んで行われた祭祀)に見られることを紹介し、飛鳥時代に渡来人によって大陸より最新技術がもたらされ、池が作られるなどの「作庭」が行われるようになり、飛鳥京跡苑池の南池に石造噴水が据えられていたことを記述するが¹³⁾、近代日本庭園の噴水記述はない。

3. 研究の対象と方法

近代の噴水事例としては、前述した佐藤の指摘のように博覧会場や洋風庭園、公園、広場等に設置されたものが多く知られるが、本研究では日本庭園(社寺境内や公園の一部となる和風庭園を含む)に設置された噴水に絞り、その歴史的展開に着目して考察を進めた。

まず、近代については「噴水」という概念(語彙)の変遷にも着目して、その歴史的展開の一端を考察する手段とした。また、近代の庭園噴水については、まとまりある関連専門研究が『噴水史研究』(佐藤, 1999)しかないことから、中村文(2006)¹⁴⁾の報告なども参考にしながら、可能な限り多くの近代の日本の庭園噴水の事例収集を目指し、各種文献、Web検索などを実施した。新聞記事は『読売新聞データベース』(明治時代、大正時代、昭和時代戦前期)を利用し、また独自に調査した雑誌・新聞からの記事を加えた。そして、文献、Web画像検索、独自に購入収集した古い絵葉書・写真を利用した。これらの情報を整理し、庭園噴水の実例を時代背景と共に確認し考察した。

4. 近代における「噴水」概念(語彙)の変遷

近代になり、噴水の増加と共に用語としての「噴水」も頻繁に使用されるようになったと考え、その概念(語彙)の変遷からわが国の庭園噴水の時代背景を探ることとした。

考察には造園学分野で語彙による概念の変遷を調べた丸島(1996)¹⁵⁾の研究手法に習い、近現代の主要な国語辞典(21冊)を用いて、「ふんすい: 噴水」と関連用語「ふきあげ: 吹上、吹き上げ、噴上」、「ふんせん: 噴泉」の語彙を調べた。(表-2)

近代の国語辞典では、明治時代中期に見出し語として「噴水」をもつ代表的辞典が現れる。明治21年(1888)発行の『和漢雅俗いろは辞典』(表-2・No1)では、「噴水: みずふき、ふきみず」とし、「吹上: 噴水器、みづふき、みづをふきあげるきかい」と解説する。明治22年(1889)『日本辞書 言海』(No2)では「吹上」は「水ヲ、樋ニテ、先ヅ低キへ導キ、夫レヨリ吹き上げシムルモノ」と庭園に用いられた噴水の伝統技術的な記述がみられる。一方、明治期の3辞典からは「噴水」は「ふき出づる水」といった語義が一般的で、水が噴き出ている状態を示していた。

大正4年(1915)の『大日本国語辞典』(No4)には、「吹上」は「水を吹きあぐる装置。又、其れより出づる水」の記述がみられるが、加えて「噴水」にも「噴き出づる水。又、其の装置」と、装置としての噴水の語彙が記述されるようになる。

昭和時代戦前期の『広辞林』(No5)、『大辞典』(No6)では「吹上」をそれぞれ、「吹き上げる装置の水。噴泉。噴水。」“水を吹き上げる装置。又、それより出づる水。噴泉。噴水。”と記述し、「吹上」が水を吹き上げる装置であると記述すると共に、「噴泉」「噴水」を同義とするが、「噴水」は、「吹き出づる水」「水を噴き上げること」とし装置概念は除かれている。『大辞典』(No6)には見出し語に「噴泉」が現れるが、これは地下水や鉱泉が地表に噴出する泉と、自然現象に限定している。

なお、昭和時代中期、昭和30年初版の『広辞苑』(No7)、『新選国語辞典』(No8)は、「吹上」の語義はこれまでとほぼ同じだが、「噴水」は前者で「高い所の水を低い所へ引いて噴出させる装置。また、その水。ふきあげ。ふきみず。」と明治期の『言海』の「吹

上」の語義解説に類似した記述、後者では「庭、池などに水がふきでるようにしたしかけ」と庭園噴水としての記述が現れ、噴き出させる装置の語義が再登場する。以降、「噴水」は水を噴き上げる装置としてその語義が定着し各種辞典に記述されていく。

昭和40年代の辞典(No9, No10)では「吹上」と「噴水」の語はほぼ同じ意味で扱われて、吹上には温泉も加わり「噴泉」の語義に近い記述が現れる。その後の辞典では、「吹上」の意味に変化は見られない。しかし、昭和60年代の『国語大辞典 言泉』(No13)、『大辞林』(No14)には、「噴水」の項に“公園、広場”、“庭園、公園”という解説語句が現れた。また、この頃の辞典から、「噴泉」に“噴水”に同じの解説もあった(No13~No17)。

表-2 国語辞典にみる「噴水」等の語義の変遷

辞典名	刊行年	出版社(者)	見出し語	語義
1 和漢雅俗いろは辞典	明治21年(1888)	三省堂	ふきあげ ふんすい	噴水器、みづふき、みづをふきあげること。噴水、みづふき、ふきみづ。
2 言海 日本語書	明治22年(1889)	大槻文彦	ふきあげ ふんすい	水ヲ、樋ニテ、先ヅ低キヘ導キ、夫レヨリ吹キ上ゲシムルモノ。噴泉。 吹き出す水。フキアゲ。フキミズ。
3 辞林	明治44年(1911)	三省堂	ふきあげ ふんすい	1吹き上げる装置の水。(噴泉、噴水)2噴風の吹き上げる所。 ふき出づる水。ふきあげ。ふきみづ。
4 大日本国語辞典	大正4年(1915)	富山房	ふきあげ ふんすい	1ふきあぐること。2風の吹きあぐる所。3水を吹きあぐる装置。又、流れより出づる水。4ふきあげのほまの略。5女の髪に飾りつけの一種。 吹き出づる水。又、其の装置。ふきあげ。
5 広辞林	昭和10年(1935)	三省堂	ふきあげ ふんすい	1吹き上げる装置の水。噴泉。噴水。2噴風の吹き上げる所。ふき出づる水。ふきあげ。ふきみづ。
6 大辞典	昭和11年(1936)	平凡社	ふんすい ふんせん	1吹き上ぐること。2風のふきあぐる所。3吹上の派。吹上の道の路。4水を吹き上げる装置。又、それより出づる水。噴泉。噴水。 水を噴き上げること。又、その噴き上げている水。 地下水や鉱泉が特別の地質構造に従って著しく地表に湧き出す泉。
7 広辞苑	昭和30年(1955)	岩波書店	ふきあげ ふんすい ふんせん	ふきあがるように装置した水。噴水。噴泉。 1ふき出る水。2高い所の水を低い所へ引いて噴き出させる装置。また、その水。ふきあげ。あきみず。 1噴出す泉。2地下水や鉱泉が地上に向かって盛んに湧き出すもの。
8 新選国語辞典	昭和34年(1959)	小学館	ふきあげ ふんすい ふんせん	水を吹き上げるしかけ。噴水。 1ふきでる水。2庭、池などに水がふきでるようにしたしかけ。ふきだすみず。温泉。 温泉、水などが勢いよくほとばしり上がること。また、その場所。特に、噴水をさすこともある。
9 日本国語大辞典	昭和47年(1972)	小学館	ふんすい ふんせん	1水をふきだすこと。2水がふき出るように作ってある装置。1わきでる泉。2地下水や鉱泉が地上に向かって盛んに湧き出すもの。
10 広辞林 第5版	昭和48年(1973)	三省堂	ふきあげ ふんすい ふんせん	吹き上がるように装置した水。噴水。 1ふきでる水。2水がふき出るようにした装置。また、その水。1わきでる泉。2地下水や鉱泉が地上に向かって盛んに湧き出すもの。
11 学研国語大辞典	昭和55年(1980)	学習研究社	ふきあげ ふんすい ふんせん	水、温泉などを勢いよく吹き上げること。また、その装置や場所。特に、噴水。 1噴き出せる水。噴き上げた水。2水が高く噴き出るようにつくったしかけ。噴き上げ。 地下から水や湯が噴きでている泉。
12 角川国語大辞典	昭和58年(1983)	角川書店	ふきあげ ふんすい ふんせん	水を高く吹き上げるように仕掛け装置。またその水。噴水。 1吹き出る水。2水を吹き出すようにした装置。またその水。噴き上げ。噴水。 地下から水や湯が噴き出している泉。
13 国語大辞典 言泉	昭和61年(1986)	小学館	ふんすい ふんせん	1海、谷など低い所からの風が吹き上がって行く所。2温泉、水などが勢いよくほとばしり上がること。特に、噴水をさすこともある。 公園や、広場の中心などで、水が噴き出るように作ってある装置。また、その水。 1=ふんすい(噴水)2わき出る泉。地上に噴き出す地下水や鉱泉。
14 大辞林	昭和63年(1988)	三省堂	ふきあげ ふんすい ふんせん	吹き上がる水。噴水。 庭園や公園などの池の中に設けた、水が噴き出るようにした装置。また、噴き出る水。ふきあげ。 1勢いよく吹きあがる泉。2噴水。
15 国語辞典	平成5年(1993)	集英社	ふきあげ ふんすい ふんせん	1低い所から風が吹き上がること。また、その所。2噴水。 1水を噴き上げること。2水を噴き上げる装置。また、その水。 1地上に噴き出す地下水や鉱泉。2噴水。 1噴泉。2海風などが吹き上げること。所。
16 日本語大辞典 第2版	平成7年(1995)	講談社	ふんすい ふんせん	1水が噴き出すこと。2人工的に水を噴き出させる装置。また、噴き出す水。 1噴水。2噴き出すわき水や、地上にわき出る地下水。鉱泉。 1風が低い所から吹き上がって行く場所。2水を吹き上げること。また、その装置。噴水。
17 明鏡国語辞典	平成14年(2002)	大修館書店	ふんすい ふんせん	1水が噴き出るように作った装置。また、その水。2噴き出る水。 1水や湯が地下から勢いよくふき出している泉。2噴水。 1(吹上)海、谷など低い所からの風が吹き上がって行く所。2噴水。
18 小学校日本語新辞典	平成17年(2005)	小学館	ふんすい ふんせん	1噴き出る水。2水が噴き出るように作った装置。また、その水。 噴き出す地下水や温泉。
19 岩波国語辞典 第七版	平成21年(2009)	岩波書店	ふきあげ ふんすい ふんせん	1風(浜風)が吹き上げる所。2噴水。 ふき出す水。また、水がふき出すようにした仕掛け。噴き出す泉。
20 新編国語辞典 第七版	平成24年(2012)	三省堂	ふんすい ふんせん	1涌が地上高く噴き上げる現象。2噴水。 1ふき出る水。2水が高くふき出るようにした設備。また、その水。 勢いよく、ふき出している温泉。
21 三省堂国語辞典 第七版	平成26年(2014)	三省堂	ふんすい ふんせん	1(水や火花などが)地上高く噴き上げる所。2噴水。 1ふき出る水。2水が上にふき出るようにしたしかけ。ふきあげ。 勢いよくふき出している温泉。

以上の辞典にみられる「噴水」の語義の変遷過程から、「噴水」の“ふき出づる水”といった語義は明治時代中期から登場し、大正時代初期に装置としての噴水の語彙が記述されるようになっていた。昭和時代戦前期には、「噴水」についての装置概念を除いて記述する辞典も見られたが、昭和時代中期(30年代)から、「噴水」は、水を噴き上げる装置としてその語義が各種辞典の記述に定着していく。また、「吹上」が元来、水を噴き上げる装置としての意味に使用されたが、これは近世以前から使用された用語法と考察され、その内容、その装置としての意味は“水ヲ、樋ニテ、先ヅ低キヘ導キ、夫レヨリ吹キ上ゲシムルモノ”といった伝統的な水を噴き上げる技術によるものを指し、一方の噴水に装置としての意味が登場する時代背景には、近代噴水、すなわち水を噴き上げるために、自然水を利用したサイフォン式から、明治時代中期以降各地で一般化していく水道や電動ポンプの影響により、水を噴き上げる装置として新たな意味の付加があったのではないかと考察される。

5. 近代における日本の庭園噴水の歴史的展開

近代日本の庭園噴水事例 449 件の画像資料¹⁶⁾(写真・絵葉書等)と、関連新聞・雑誌記事 36 件(明治期 26, 大正期 8, 昭和戦前期 2)¹⁷⁾について、設置あるいは使用年代の判明したものを中心にして整理し、「近代日本の庭園噴水事例」(表-3)と「近代の庭園噴水関連新聞記事一覧」(表-4)とし、これに基づき、考察を進めた。

諏訪神社¹⁸⁾(長崎, 1877 頃, 図-6)、靖国神社(東京, 1880)、東京劇場千歳座庭園¹⁹⁾(東京, 1879, 図-7)の噴水が明治初期の庭園噴水事例として知られる。1885 年(明治 18)以前設置では駒込草津温泉(東京, 図-8)、万安の庭園噴水(東京, 図-9)もあった。

1873 年(明治 6)太政官布達第 16 号により公園制度が施行され、浅草公園(東京, 1903, 図-10)のように古くからある寺社の境内に噴水と噴水池を設置した事例が増していく。長崎諏訪神社(1877)も境内が公園となりその和風の池に噴水が設置された事例であり、公園内に初めてつくられた噴水といわれている²⁰⁾。岩国吉香神社公園(山口, 1885, 図-11)や白山公園(新潟, 明治時代中期, 図-12)の噴水も同様事例である。また、函館公園(北海道, 1888, 図-13)にも噴水が設置され²¹⁾、明治中頃明石公園(兵庫, 明治時代中期)にも噴水はつくられた。

明治維新後、西洋文化が急速に日本の社会、経済、生活に導入されていった。そのような時代背景にあって、各地で産業振興に関する多くの博覧会・共進会が開催された。博覧会・共進会の会場の中心的な目立つ場所には噴水が設置された²²⁾。

また、枢密院[赤坂御所別館]庭園(東京, 1888)など、日本の中枢を担う人々の周囲、官邸の庭園などに近代的な噴水が設置され始めている。

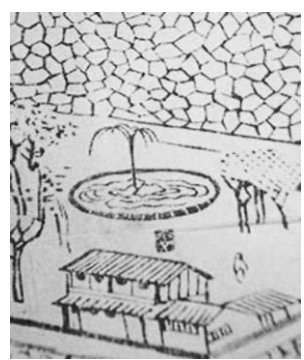


図-6 長崎諏訪神社 1877 年頃
(「長崎諏訪御社之図」, 1878 年)

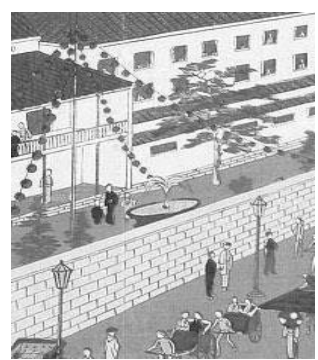


図-7 東京劇場千歳座 1879 年
(「東京劇場千歳座之景」, 1884 年)



図-8「東京草津温泉邸内之図」部分、1885年以前（『東京商工博覧絵 第二編 上』、1885年）



図-9「万安庭内図」部分、1885年以前（『東京商工博覧絵 第二編 下』、1885年）



図-10 浅草公園 1903年（絵葉書部分、1907年）



図-11 吉香神社公園 1885年（絵葉書部分、昭和時代戦前）



図-12 白山公園 明治時代中期（絵葉書部分、1932年）



図-13 函館公園 1888年（絵葉書部分、1936年、吉田初三郎筆）

明治時代中頃近代水道の開設²³⁾（横浜、1887）は噴水設置を容易とし、日本各地に噴水が広まる原因となったと思われる。1894年（明治27）に京都の東本願寺境内に連弁から湧き出る泉状の噴水と共に高さ数百尺の噴水が設置された。これは防火用水として琵琶湖疏水を利用した²⁴⁾事例であるが、現存する庭園噴水としては、円山公園の噴水（京都、1892、図-14）があげられる。そして、1901年（明治34）11月『風俗画報』の虎ノ門金刀比羅宮境内の図には小さな噴水²⁵⁾（東京、1901、図-15）が見え、また、1905年（明治38）には日比谷公園鶴の噴水（東京、1905、図-16）が和風庭園である雲形池に設置された。日比谷公園の案内板によれば、鶴の噴水は「公園等での装飾用噴水」としては日本で三番目に古く、一番目は長崎の諏訪神社だという。

明治時代末までに、東京では公共の庭園などに次々と噴水がつくれ、一般の庶民もそれを目にするようになっていた。

表-3 近代日本の庭園噴水事例

設置年	噴水の確認された場所	地域	画像の有無	画像出所/記事出所
1811 (江戸時代後期)	水戸偕楽園	茨城	写真2枚 玉龍水之図1枚	佐藤昌(1999):噴水史研究 松平俊雄(1885):茨城常盤公園 櫻井図誌
1861 (江戸時代後期)	兼六園	石川	絵葉書9枚 兼六園内噴水図1枚	※ 小川種(1894):兼六公園誌
1863(文久3頃)	グラバー邸	長崎	写真1枚	佐藤昌(1999):噴水史研究
1865(文久5頃)	オルト邸	長崎	写真1枚	佐藤昌(1999):噴水史研究
1874(明治7頃)	駒込吉備津神社	東京	無し	読売新聞記事
1877(明治10頃)	長崎諏訪神社	長崎	写真2枚 長崎諏訪神社之図1枚	※ 岡月洲(1878):長崎諏訪神社之 図
1878(明治11)	三井寺	滋賀	無し	読売新聞記事
1879(明治12)	久松座(東京劇場千歳座)	東京	錦絵1枚	井上安治(1884):東京劇場千歳 座之景
1880(明治13)	靖園神社	東京	絵葉書30枚	※
1881(明治14)	千歳館	山形	絵葉書2枚	※
1882(明治15頃)	辰之口勤工場	東京	錦絵1枚	松浦吟光(1882):辰之口勤工場 庭中之図
1885(明治18以前)	王子製紙会社(前庭)	東京	図版1枚	新井藤次郎(1885):東京盛園 誌
1885(明治18以前)	駒込草津温泉	東京	図版1枚	深溝池源次郎(1885):東京商工 博覧絵 第二編上
1885(明治18以前)	万安庭園	東京	絵葉書1枚 図版1枚	※ 深溝池源次郎(1885):東京商工 博覧絵 第二編下
1885(明治18)	周防岩国吉香神社公園	山口	絵葉書8枚	※
1885(明治18)	富士屋ホテル	神奈川	絵葉書8枚	※
1888(明治21)	極密院(赤坂御所別館)	東京	錦絵2枚	楊州周延(1888):極密院会議之 図
1888(明治21)	函館公園	北海道	絵葉書26枚	※
1892(明治25)	円山公園	京都	絵葉書8枚	※
1894(明治27)	西本願寺[蓮華噴水]	京都	写真4枚、絵葉書1枚	佐藤昌(1999):噴水史研究
1894(明治27)	東本願寺	京都	絵葉書17枚	※
1895(明治28頃)	中之島公園	大阪	絵葉書8枚	※
1900(明治33)	飯田河岸富士見楼	東京	無し	読売新聞記事
1901(明治34)	虎ノ門金刀比羅神社	東京	図版1枚	東陽堂(1901):風俗画報
1902(明治35以降)	一関公園	岩手	絵葉書1枚	※
1903(明治36)	別府遊園地	大分	絵葉書2枚	※
1903(明治36頃)	浅草公園[龍神噴水]	東京	絵葉書28枚	※
1889-1904 (明治時代中期)	小樽公園 白山公園 新潟 木更津の庭 神奈川 山梨 養老公園 岐阜 伊勢長(料理屋) 京都 兵庫 明石公園 安藝宮島紅葉谷岩惣旅館 広島 福山公園 横濱公園 神奈川	北海道 新潟 神奈川 山梨 岐阜 京都 兵庫 明石 広島 福山 神奈川	絵葉書7枚 絵葉書4枚 写真1枚、絵葉書1枚 絵葉書1枚 絵葉書7枚 絵葉書2枚 絵葉書3枚 絵葉書3枚 絵葉書1枚 絵葉書21枚	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
1905(明治38)	日比谷公園[鶴の噴水]	東京	絵葉書25枚	※
1905(明治38以降)	前橋公園	群馬	絵葉書1枚	※
1906(明治39以前)	小石川後楽園	東京	絵葉書1枚	※
1907(明治40頃)	別府公園	大分	絵葉書15枚	※
1908(明治41)	千歳公園	山形	絵葉書16枚	※
1910(明治43)	高崎公園	群馬	絵葉書19枚	※
1912(明治45) (~7/30)	瑞蔵寺	宮城	写真4枚	※
1905-1912 (明治時代後期)	千秋公園 長野公園 沼津公園(千本浜公園) 静岡 兵庫 諏訪山公園 羽田別荘庭園 徳島公園 帝國ホテル 東京	秋田 長野 静岡 兵庫 徳島 東京	絵葉書10枚 絵葉書8枚 絵葉書3枚 絵葉書1枚 絵葉書1枚 絵葉書2枚 絵葉書1枚	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
1912(大正1頃)	片桐邸	新潟	片桐家庭園現況実測 平面図1枚	後藤敏之(2006):作庭家後藤石 水三代の庭園デザインにみる近代 日本庭園の展開:日本庭園学会 誌 14-15, 34
1913(大正2)	芝公園	東京	絵葉書1枚	※
1913(大正2頃)	大倉喜八郎邸	東京	絵葉書1枚	※
1913(大正2頃)	渡邊邸	東京	無し	読売新聞記事
1913(大正2頃)	伏見宮邸	東京	無し	読売新聞記事
1914(大正3)	強羅公園	神奈川	絵葉書25枚	※
1914(大正3)	花月園遊園地	神奈川	絵葉書5枚	※
1914(大正3頃)	松原公園	大分	絵葉書14枚	※
1915(大正4)	城山公園	長野	絵葉書2枚	※
1917(大正6頃)	辰山園(京都駅小庭園)	京都	絵葉書1枚	※
1919(大正8頃)	大倉公園	愛知	絵葉書2枚	※
1926(大正15)	明治神宮外苑	東京	絵葉書1枚	※
1912-1926 (大正時代)	宝珠山立正寺 映陽館 蓬萊楼(玄關中庭) 長野公園 深志公園 安藝宮島紅葉谷公園 京都市立記念動物園 伊香保博士門部	山形 東京 静岡 長野 長野 広島 京都 福岡	絵葉書2枚 絵葉書1枚 絵葉書1枚 絵葉書10枚 絵葉書7枚 絵葉書5枚 写真2枚	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
1930(昭和5)	山下公園	神奈川	絵葉書5枚	※
1930(昭和5)	野毛山公園	神奈川	絵葉書18枚	※
1934(昭和9)	峰村邸	新潟	峰村邸庭園現況実測 平面図1枚	後藤敏之(2006):作庭家後藤石 水三代の庭園デザインにみる近代 日本庭園の展開:日本庭園学会 誌 14-15, 35
1926-1945 (昭和時代)	日黒雅叙園 豊川閣妙厳寺	東京 愛知	絵葉書1枚 絵葉書7枚	※ ※

画像出所欄中の※印は著者のアーカイブ化した古絵葉書・写真。

表一 近代の庭園噴水関連新聞記事一覧（明治・大正・昭和時代戦前期）

場所	新聞紙名 発行年月日	記事タイトル	記事内容
駒込吉備津神社	読売新聞 明治7(1874)年12月10日	帆付き風車で噴水の見せ物 5の日の縁日に東京 駒込で	毎月五日十五日二十五日に駒込追分町伊藤邸に有る吉備津神社の傍にて帆付風車にてポンプの水を吹き上げさせるといふ...
三井寺	読売新聞 明治11(1878)年9月13日	三井寺に西南戦争死者の記念碑 軍人や役人が費用を負担/滋賀県	大津、三井寺、戦没者の記念碑 2つの噴水器(ふきあがる高さ9尺)
久松座 (東京劇場千歳座)	読売新聞 明治12(1879)年2月20日	浜町の久松座が豪華な建築 ガス・樹園・噴水・屋上運動場など評判/東京	諸新聞にて評判の浜町の久松座の今度の普請 大そう立派にて瓦斯とも引き左右の樹園へ三段の噴水...
	東京朝日新聞 明治32(1899)年8月10日	無し	今十日開場の同座(注:宮戸座)時節柄なりとて土間に噴水を拵へ東西の運動場に八顔洗場を設けたりと。
靖国神社	読売新聞 明治11(1878)年7月4日	九段の招魂社で清はらいの神事 巡査が参拝し、境内は滝や噴水も始動/東京	九段の招魂社の境内に昨日より瀧が落ち水盤の吹き水も出る様になり...
	読売新聞 明治14(1881)年5月5日	靖国神社境内に備行社付属「遊就館」、12日頃開館/東京	今度九段の靖国神社の境内へ新築された備行社付属の遊就館の構内へ広大な築山と泉水を取り設け山の一面に芝を植付け泉水への噴水器を仕掛けて鯉鮒鯉などをも放され来る十二三日頃開館見込み...
千歳館	山形新聞 明治14(1881)年9月13日	無し	又当地行在処の御庭に当るところへ鶴の形に池を掘り該地へ唐金製の太亀を置き北隣なる勸業課附属の製糸場の溜池より水を引き該亀の口より水を吐かせ其水を行在処御風呂場へ引く積りなりとして其亀は来る廿一日まで出来上りの見込を以て銅町なる川邊金次郎が一切引き受けしと云う。
	山形日報 明治41(1908)年9月17日	無し	因みに亀は目下千歳公園内亀松閣の池中にある亀はそれにて此亀を此園に移したるを以て亀松閣と名づけたるものなりという。
辰の口勸工場	郵便報知新聞 明治15(1882)年7月18日	無し	...恰もよし同所庭園中に築きし噴水其工を竣り...
函館公園	函館新聞 明治22(1889)年9月18日	無し	今度の疎水式に付種々の飾り物を作る中に水道の水を利用して噴水など装置には区役所の許可を得る事なるが右出願は昨日限りにて締切り今日より八許可されざるよしなり。
	函館新聞 明治22(1889)年9月20日	無し	...会所町八八幡坂へ庭を築き中央に井戸を設け金網にて丈余の円筒形を以て之を掩い中より噴水せし...
円山公園	読売新聞 明治24(1891)年8月30日	京都円山の公園地 市参事会が常務員置いで設計、滝や噴水を造り、家屋立ち退き	京都円山の公園地 ...有名な絲垂櫻(祇園社の上)の邊りに一大噴水を設くる筈なる...
東本願寺	読売新聞 明治27(1894)年5月8日	東本願寺の防火噴水が近く完成/京都	京都東本願寺大師堂には防火噴水を設けて不虞の用に供する由なるが抑も東本願寺にては今より十五年前非常用水として御苑内より...
	読売新聞 明治28(1895)年4月20日	画像「東本願寺噴水の図」/原貴之助絵	絵の中に東本願寺の噴水が描かれている。
中之島公園	大阪毎日新聞 明治28(1895)年11月14日	無し	...沈殿池の右に当りて大なる雪輪形の池を穿ちその中央の巖上にセメント製の亀を置き口より八十五尺の高さに噴水せしむその壯観云ふ可らず...
飯田河岸富士見楼	読売新聞 明治33(1900)年7月30日	上野停車場に販売店付の待合所 営業人は指名入札で飯田河岸富士見楼で滝開き	富士見楼の滝開き 飯田河岸富士見楼にて、例年の如く一昨日より滝開きを無し、庭内の小池より噴水高く出る...
浅草公園 [竜神の噴水]	読売新聞 明治36(1903)年3月22日	東京市が浅草公園観音堂前に噴水銅像を建設へ	東京市の浅草公園観音堂前に噴水銅像を建設することに決し其の意匠及び構造を浅草美術学校に託せしが最早竣工せしを以て明廿三日...該銅像は金龍観音化身の尊像を巻きて、其の頭より水を噴くという意匠にて出来栄極めて妙なり。
	読売新聞 明治36(1903)年8月8日	浅草公園の噴水が完成/東京	浅草公園の噴水器 豫て浅草公園観音堂裏手に建設中なりし噴水器は悉皆落成したる...
	読売新聞 明治37(1904)年8月16日	もしほ草 浅草公園の噴水を時間制限など人のうわさや話題	浅草公園の噴水時間は朝の五時半より夜の十二時を限りとなり、但し冬期の時間を減縮する例なるが今日この頃の熱さ盛り徹夜。
	読売新聞 昭和9(1934)年7月14日	噴水塔飲水の流しに小虫/東京・浅草	浅草公園 苔と虫。子供が水を飲むので注意した警告。
	読売新聞 昭和9(1934)年11月20日	[話の港]	浅草公園龍草池の排水路が震災以来通じなくなり、最近出なくなった。そのため噴水をだてておく六区が水びたしになるので詩の公園課で噴水をためた...
日比谷公園 [鶴の噴水]	読売新聞 明治34(1901)年6月12日	日比谷公園設計案の概要/東京市	南西の庭園 東西百間南北七十間面積凡そ一萬七千餘坪を有し東道の東を仁壽園と称 園の中央に壽星と称する面積五百八十坪の池を穿ち、その中央に蝦蟇仙人の銅像を立て噴水装置...
	読売新聞 明治36(1903)年5月31日	あす開園の日比谷公園紹介 設備概略、音楽堂の位地、公園揭示など	設備の概略 ...公園の入口に二箇の大なる石柱を立て庭内に山あり噴水あり...
	読売新聞 大正2(1913)年7月17日	水 公園の水の音	日比谷の鶴の噴水や上野の不忍の池は公園の内でも名が高く、その飛沫の涼しさ、その蓮の香の清らかさは今さら言うものあたらないが、そのほかの公園にはどんな水の光があり、どんな水の音がするか...
	読売新聞 大正2(1913)年8月8日	一日七百圓の水	日比谷公園の鶴の噴水は四回に廻り池畔に佇むものに無限の涼味をあててくれる...
	読売新聞 大正5(1916)年7月9日	[婦人付録]青葉の公園 涼風袂をはらう日比谷の夕涼み	池の中には河骨の黄な花が開いて い水の中を泳ぐ鯉の美しさも透いて見え霧の様な噴水が鶴の羽を濡らすにも一掬の涼味が味はれます。
	読売新聞 大正8(1919)年5月2日	心字ヶ池の人工蜃 長い首を傾げて鶴不審がる	さらに美しく鶴の口から空中高く噴上げられる噴水は汀の強い電燈の光を受けて水晶の珠を砕ける。
	読売新聞 大正8(1919)年6月9日	緑と噴水=写真	絵の中に鶴の噴水が描かれている。
	読売新聞 大正10(1921)年6月23日	斬馬剣 怠け噴水	日比谷公園の鶴の噴水について東京市に対し維持管理を怠けていると指摘...
千歳公園	山形新聞 明治41(1908)年9月16日	無し	千歳公園内第一池の噴水器はすでに竣工し岩上及び盤上に立ちたる五羽の鶴の嘴から見事に噴水されて居たが、千歳変らぬ池畔の緑松が澄みたる池心に影を映して噴水の点滴より起る小波にゆらゆる状は風情を添えて居る...
	山形新聞 明治41(1908)年9月18日	無し	...諸方より来集せる数万の拝観者にて身動きも出来得ざる程なりき殊に噴水器の附近は一層の混雑を極めたり...
	山形日報 明治41(1908)年9月18日	無し	御車より下りさせられ池辺の風景噴水等を暫時御覧あり池の東北に高さ三尺五寸許の松樹を御手植に遊ばされた。
沼津公園 (千本浜公園)	静岡民友新聞 明治40(1907)年12月5日	沼津公園	嘗て白澤林学博士より日本唯一の公園なりとの讃辭を贈られたる沼津町千本浜公園は...本月一日を以て之れが開園をなし目下下りに工事を急ぎ居り来年三月迄には全園落成の見込にして...共同休憩所を設け噴水二ヶ所...を設く...
芝公園	東京朝日新聞 明治40(1907)年3月11日	噴水と飛泉の停止 水道減量に就て	...雨水の欠乏は終に多摩川の水源に影響し淀橋貯水池の水量著しく減じたるにより止むを得ず今十一日より当日日比谷公園、靖国神社境内、浅草公園、芝公園等に設けたる噴水と飛泉を中止する事に決したり。
	読売新聞 大正2(1913)年8月8日	驚き可き噴水量 涼しいがぜいたくな噴水 各自水を乱費するな	...靖国神社内には鯉の噴水があり芝公園には蓮池にあるがこれは紅葉の滝と共に夏は中止することになっている...
渡邊邸	読売新聞 大正2(1913)年8月8日	驚き可き噴水量 涼しいがぜいたくな噴水 各自水を乱費するな	伏見宮邸の噴水 個人の庭園などにも随分噴水はあるが装置のすぐれたものとして挙ぐべきは麹町麩町の大倉邸のものど芝高輪の渡邊伯邸のであらう。渡邊伯邸のは岡龍雲齋氏が構造した...
伏見宮邸	読売新聞 大正2(1913)年8月8日	驚き可き噴水量 涼しいがぜいたくな噴水 各自水を乱費するな	伏見宮邸の噴水 個人の庭園などにも随分噴水はあるが装置のすぐれたものとして挙ぐべきは...また伏見宮邸にもあるが、先年塔岡邸の邸家から市に対して何とか噴水量の少くなる工夫はあるまいかという相談があつた...
辰山園 (京都駅小庭園)	日出新聞 大正9(1920)年7月7日	無し	大正六年京都駅の新築成るや時の神戸鉄道管理局長野村弥三郎氏発起となり同構内約七百坪をトして樹石を配置し噴水の設計を京都美術工芸学校千熊教諭に託し経費一万余円を投じて造園をなしたり...未だ何等の命名なきを惜み今日野村氏の雅号辰山を其の儘辰山園と命名せりと。

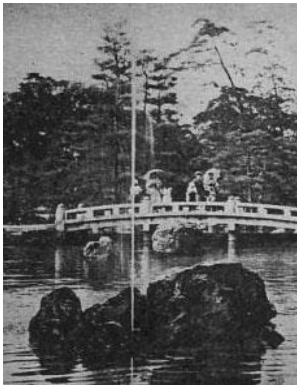


図-14 円山公園 1892年
(絵葉書部分、大正時代)



図-15 「虎ノ門金刀比羅宮境内」部分
1901年(『風俗画報』第241号、1901年)



図-16 日比谷公園 1905年
(絵葉書部分、大正時代)



図-17 大倉喜八郎邸庭園 1913年頃
(絵葉書部分、大正時代末期)

明治時代後期から、昭和時代戦前にかけては工業技術も発達し、生活基盤も整った。その後、大正初期には大倉喜八郎邸(東京向島, 1913頃, 図-17)²⁶⁾、そして伏見宮邸(東京赤坂, 1913頃)等皇族の邸宅の庭にも噴水がつくられ、昭和中期には、身分の高い邸宅に限らず個人庭に噴水がつくられた。個人庭園での噴水設置例が散見されることから、昭和時代初期には日本における庭園の噴水は、その語義同様に広く一般化していたことがうかがわれる。

新聞記事に取り上げられた噴水の見出し・記事からみると、明治時代には浅草公園(3件)、千歳公園(3件)の噴水に関する記事件数が多かったが、噴水が珍しく、それが設置されることだけでも記事として取り上げられていた。大正時代には噴水が徐々に珍しくなくなったため²⁷⁾、噴水の構造、技術などの記事(8件)とわずかになった。それに続く、昭和時代戦前期の噴水に関する記事件数は2件だけである。このことから噴水設置は時代を経る毎に一般化したことが読み取れた。

5. まとめ

日本の噴水の発展は近代からであった。同様に、近代における庭園噴水の流行も文献、記事から認められた。主要な国語辞典に記載の「噴水」「吹上」の語義の変遷では、噴水は明治中期頃に辞典に登場し始め、当時は「吹上」が担っていた水を吹き上げる装置の語義を、大正時代初期には「噴水」が持ち始めていた。この頃、新たな装置としての噴水概念が一般化したようである。

こうした時代状況から、日本の庭園噴水も明治時代中期からその設置が認められ始め、最初、市中では公園地となる寺社境内の池、また皇居、枢密院[赤坂仮御所別館]といった権力中枢者の集う庭に噴水が導入されていた。明治中期以降、日本各地で近代水道が開設され、各地の公園地の池に噴水が加えられ、大正時代には邸宅庭

園の噴水が増し、大正・昭和中期と庭園噴水が増えていく様相が見て取れた。以上が、近代日本の庭園に導入された噴水の歴史的展開であった。

しかし、昭和時代中期(30年代)から、「噴水」は水を噴き上げる装置としてその語義が一般化していく一方、上原(1960)は「日本庭園に噴水の出現は望み薄」と説く。噴水は公園、広場に多く設置されるなど広く公共空間に一般化していく反面、日本庭園の噴水は敬遠されて現在にいたる、と考察される。

近代日本における庭園噴水は、西洋噴水の導入と近代水道の開設を契機に一時的に流行し、すたれていったものといえよう。

現在、日比谷公園の鶴の噴水や京都の円山公園、そして、復元された新潟の白山公園等の噴水にその当時の面影を今にのこす。謝辞：本論文を執筆するにあたり、辞典の噴水調査に協力してくださった萩野谷豪さん(東京農業大学造園科学科41期卒業論文)に感謝申し上げます。

補注・引用文献等

- 1) 佐藤昌(1999)：噴水史研究：インタラクシオン、環境緑化新聞社、348-351
- 2) 1)：352-353
- 3) 1)：354-358
- 4) 松平俊雄(1885)：茨城常磐公園覽勝図誌 2巻、上巻：北沢清三郎(印刷者)、37
- 5) 小川隆(1894)：兼六公園誌、巻之1：近田三三郎、18
- 6) 1)：382,401
- 7) 上原敬二(1960)：ガーデンシリーズ12 橋・池泉・壁泉：加島書店、212
- 8) 田村剛(1929)：後楽園史：刀江書院 19
- 9) Gas Museum がす資料館(1996)：明治瓦斯燈錦江づくし：東京ガス Gas Museum がす資料館、146
- 10) 賀茂百樹(1911)：靖国神社誌：靖国神社、77
- 11) 7)：204
- 12) 1)：348-482
- 13) 小野健吉(2009)：日本庭園 空間の美の歴史：岩波書店、4-20
- 14) 中村文・鈴木誠(2006)：絵葉書を通してみた近代日本の噴水と噴水池に関する考察、平成18年度日本造園関東支部大会事例・研究報告集、21-22
- 15) 丸島秀夫(1996)：中国盆景と日本盆栽の呼称の歴史研究：ランドスケープ研究60(1)、36-45
- 16) 筆者らが収集・保管する日本の庭園噴水の画像531枚がある。この中、近代の日本の庭園噴水の画像(写真17枚、絵葉書419枚、その他13枚)は449枚である。
- 17) 噴水に関する新聞記事104件がある。この中、庭園噴水に関する新聞記事(読売新聞23件、山形新聞3件、東京朝日新聞2件、山形日報2件、函館新聞2件、郵便報知新聞1件、大阪毎日新聞1件、静岡民友新聞1件、日出新聞1件)36件がある。
- 18) 岡月洲の「長崎諏方御社之図」(1878年11月出版・長崎県立長崎図書館蔵)として知られる版画には池中に噴水の姿が描かれている。現在の噴水は「長崎諏方御社之図」を基に復元されたものである。
- 19) 1884年(明治18)1月に開場した千歳座を描いた錦絵、井上安治の「東京劇場千歳座之景」には劇場の脇に設けられた庭に噴水が描かれている。
- 20) 1)：401
- 21) 1)：405
- 22) 寺下勅(1987)：博覧会強記：エキスポプラン、227-262
- 23) 岩崎岩次(1990)：日本の噴水(1) 見聞記、工業用水第376号：日本工業用水協会、49
- 24) 松崎貴之：日本一の噴水が京都にあった：ずっと噴水が好きだったホームページ <<http://blogs.yahoo.co.jp/eigajin>>2014.10.20更新、2014.12.5参照
- 25) 東陽堂(1901)：風俗画報第241号：東陽堂、27
- 26) 松崎貴之：大倉喜八郎邸の噴水：ずっと噴水が好きだったホームページ <<http://blogs.yahoo.co.jp/eigajin>>2014.10.20更新、2014.12.5参照
- 27) 杉本文太郎(1925)：最新図解 日本造庭法：昭文堂、193。「噴水」の項を設けて、噴水は洋風庭園のみのものではないこと、かなり昔から我が国の庭園に用いられていること、水道利用により広い庭の水源の一部にするのもよい、などの記述がみられる。